

ダイバーシティ事業 国際共同研究PI養成 事前調査プログラム
報告書

報告日：2019年3月22日

派遣者所属名	経済学研究科
派遣者氏名	Agata Wierzbowska
<p>PI養成事前調査プログラムの派遣期間中にワルシャワ市における2つ大学：Warsaw University of Life Sciences（以降：SGGW）とWarsaw School of Economics（以降：SGH）の先生とお会いし、お互いの研究分野・興味、共同研究の可能性とそのトピックスに関して話し合った。</p> <p>まず、SGGWのSylwester Kozak先生と共同研究の様々なトピックスについて議論した。その結果、銀行システムの分析に関するいくつかの可能な課題を見つけ、先にポーランドの銀行システムの分析を行うことにした。具体的には、銀行の費用関数に基づき、個々の銀行競争力、ポーランド銀行システムの競争状態と銀行の効率性を推定し、その時間移動や決定要因を分析することになった。このトピックに関する先行研究を確認し、分析のために必要なデータについても話し合った。必要なデータの一部をKozak先生から受け取り、その処理を始めた。また他のデータベースのデータも確認する予定がある。これからの打合せはメールで行い、データの処理が終われば、実証分析に入る予定である。また、ポーランドの銀行システムの分析のほか、アメリカにおける銀行破綻の決定要因に関する分析についても話した。銀行破綻に関するデータはもう集まっているが、その他の必要なデータはまだ入手していないため、以上の研究課題に関する作業が進んだ後に、次の分析として行う可能性である。SGHに関しては、招待されて学内セミナーにおいて自分の研究について報告した。その際に他のSGHの先生とも知り合い、セミナー後は数人の先生とお互いの研究テーマについて議論した。将来的に、新しい研究プロジェクトなどを立ち上げる際、共同で研究を行う可能性があることを話した。</p> <p>また、SGHの博士後期課程の院生と会い、様々な研究課題の中、「green finance」（温暖化や環境問題などを考慮する投資）の促進における中央銀行の役割について、お互いに問題意識と知識を含め、議論した。</p>	

海外派遣終了後の研究の進捗状況（2021年3月現在）

2019年3月にPI養成事前調査プログラムでワルシャワ市における2つ大学：Warsaw University of Life Sciences（以降：SGGW）とWarsaw School of Economics（以降：SGH）の先生とお会いし、お互いの研究分野及び興味のある課題、共同研究の可能性とそのトピックスに関して話し合った。SGGWのSylwester Kozak先生と共同研究の様々なトピックスについて議論し、銀行システムの分析を行うことにした。派遣後、日本に戻った時から、順次共同研究を進めてきた。当初はポーランドの銀行システムから始める予定だったが、それをポーランドも含んだ中東欧諸国に広げた。研究の内容は、まず銀行の利潤関数に基づき、個々銀行の効率性係数を推定し、各国の銀行効率性の水準及び時間推移を観測する。次、パネルデータ分析を用い、その効率性の決定要因、特に各国銀行システムの競争状態の影響を調べている。研究協力の結果、2つの論文を学術雑誌で投稿し、もう1つは投稿中である。これからも、新たな共同研究を検討するだろう。